

講演会

# 未来は永遠に続く： レトロフューチャー仮説

## *The Future Lasts For Ever : The Retrofuturist Hypothesis*

SF文学や映画、デザイン、写真、現代美術において広がりを見せている「レトロフューチャリズム」という潮流は、実現されなかった未来が、いまなお私たちの中に遺産として生き続けていることを改めて考えさせるものである。

未来への想像力は、これまでしばしば、来るべき世界を積極的に形づくる試みとして展開されてきた。しかし、そうして描かれた未来のイメージは、今日ではむしろ強い時代性を帯びたものとして見えてくる。それらは、「未来にも歴史がある」という観点から歴史的に、あるいは「形式にも無意識がある」という観点から精神分析的に読み解くことができるであろう。より一般的には、そうした未来像は郷愁を誘い、かつてのユートピア的な推進力の喪失や、現在が自らの未来を構想しえない状態を際立たせるものである。

しかし同時に、「レトロフューチャー」が奇妙なほど現代的に感じられる瞬間も存在する。そのときレトロフューチャリズムは、過去に思い描かれた未来が、まさに現在という生成過程の只中において、なお持続的に作用していることの証したなる。この視点は、形式がもつアナクロニスティックな潜在性と力という、より広い問題系とも響き合っている。

本講演では、この「現在のレトロフューチャリズム」という逆説的な直観を出発点として、ブルース・スターリングやウィリアム・ギブソンのスチームパンク小説、スタンリー・キューブリック『2001年宇宙の旅』、リドリー・スコット『ブレードランナー』、『トロン』やベクター・グラフィックのアーケードゲーム、黒川紀章の建築やジャック・タチ『プレイタイム』の世界、さらに近年のファッションやスペキュラティヴ・デザインの動向を参照しながら検討を進める。また、アンリ・ベルクソン、アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド、ヴァルター・ベンヤミン、フレドリック・ジェームソンといった思想家たちの議論とも交差させつつ、考察を深めるものである。

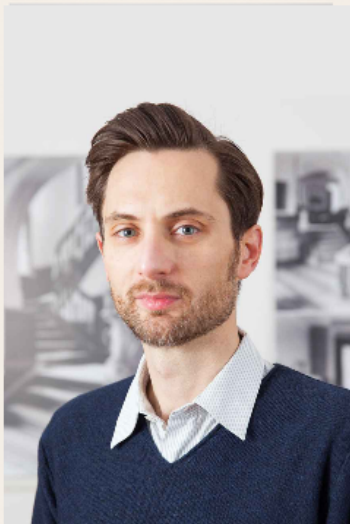
講演者

**Elie During**  
(エリー・デューリング)

パリ西ナンテール大学准教授。専門は哲学。現代美術、デザイン、建築、都市についての論考・著書多数。

主な著作：

- ・「つなぎ間違いーイメージの共存」(2010年)
- ・「未来は存在しない」(2014年、アラン・ビュブレックスとの共著)
- ・「グレン・グールド」(2021年、アラン・ビュブレックスとの共著)
- ・「ドゥルーズ、12の人物像」(2026年、ドルク・ザルブニヤンとの共編著)



日時

2025年5月13日(水)  
18:00-19:30



会場

東京大学 駒場キャンパス  
18号館 4階 コラボレーションルーム1



講演言語

英語



質疑応答

英語・フランス語・日本語(いずれも可)